

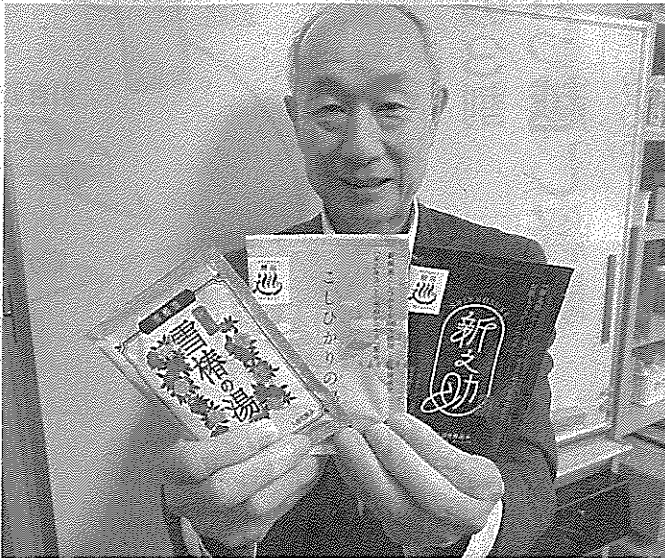
新潟市西区の入浴剤会社、環境科学は米「新之助」の入浴剤を開発し、県産米のアピールに一役買っている。同入浴剤は女性をターゲットにした商品で、同社の豊島則夫社長は「新

潟米には、お肌をみずみずしく保つ成分がふんだんに含まれる。米を食べて米の風呂に入り、内と外から健康な新潟美人になってほしい」と、開発目的を強調する。

米「新之助」で入浴剤

新潟市西区の「つやつや効果好評 環境科学が開発

米「新之助」「コシヒカリ」の成分が入った入浴剤



入浴剤「新之助」には「新之助」の米ぬかエキス、甘酒エキスの3成分

が含まれる。入浴後は「つやつや、ばかほか」効果が長持ちするといふ。湯色は稲穂色とし、香りはヒノキだ。同入浴剤は「新之助」の販売を記念して県が新商品開発を後押しした。同社は同じく新潟産「コシヒカリ」100%を使った米エキス、米ぬかエキスを含んだ「こしひかりの湯」を販売している。こちらも米の保湿成分に着目した新潟ならではの入浴剤として好評だ。湯色は乳白色で香りはユズ。同社は、全国200以上の温泉の入浴剤を販売

する。県内でも月岡温泉や湯沢温泉などの入浴剤を開発。土産物として観光地の活性化などに人気だという。豊島社長は「新潟県の木、ユキツバキのつばき油(保湿成分)を抽出して開発したのが『新潟雪椿(つばき)の湯』だ。

ユキツバキ同様、新潟といえは米。米をベースにした入浴剤で、新潟の発信に役立てたい。JAや農業法人のオリジナルのPRアイテムとして活用してほしい」と話す。主な販売先は、新潟ふるさと村、JR新潟駅などの土産品コーナーだ。

価格は1袋30g、180円(税別)。